



西南学院大学 3年 兼明さん



6日間という非常に短い期間ではありましたが、とても濃い時間を過ごすことができました。現地の人々はみな明るくパワフルで、話していてとても楽しかったですし、トンレサップ湖やアンコールワットなど、観光名所もまわることができ非常に毎日が充実していました。

同時に様々なことを考えさせられました。

カンボジアという国を通じて、地雷の恐ろしさや戦争の悲惨さなどを再認識したのはもちろんですが、それ以上に私は、世界的に見て日本がどういう国であるのかについて深く考えさせられました。そして考えていく中で一番思ったことは、「日本がいかに恵まれた国であるのか」ということです。

特にそれを強く感じたのは、日本語教室を訪問した時です。

私たちが訪問した際、講師の鬼一三先生は、「カンボジアは書物が十分にそろっておらず、勉強したくても満足な勉強ができない学生がたくさんいる。だから私は日本からたくさん

の書物を集めて学生に提供している。学生の中には、ここの書物で勉強するために遠方からわざわざ通ってきている人もいる。」というお話をされました。そして教室に入ると、ボロボロの日本語の教科書片手に、一生懸命勉強している生徒が何人も見受けられました。日本でいえば、本なんて図書館に行けばいくらでも読めますし、勉強しようと思えばいくらでも勉強できます。しかし私たちが日常、当たり前だと思っているこれらのことも、世界に出れば当たり前ではない。自分たちがいかに幸せで恵まれた環境下におかれているのかをこのとき痛烈に感じました。

日本に帰国して数日が経ちますが、今までとはまるで違った視点で日常生活を送れている気がします。この6日間で学んだこと・考えたことを常に心に留めておこうと思います。最後になりましたが、ツアー準備でお世話になった星原さん、駐在員の曾田さん、ガイドのアンさんには大変感謝しています。たくさんの学びを本当にありがとうございました！！また会えることを楽しみにしています。

